

22 コンニャクの越冬栽培

福島県農業試験場こんにゃく試験地・平成12年度農業試験場試験成績概要

1 部門名 特用作物ーコンニャクー作型・栽培型 分類コード 06ー02ー18000000

2 担当者 平山 孝・齊藤研二

3 要 旨

コンニャクの種いもを秋に掘り取らずに、そのまま土壌中で越冬させる貯蔵法(畑越冬)は、温暖な地域の南面傾斜地で自然生栽培として行われているが、気象条件に左右されやすく生産が不安定なため、栽培技術としては利用されていない。コンニャク栽培の省力化技術として、在来種2年生またはあかぎおおだま生子を植え付けて畑越冬させ、翌年秋に収穫・出荷する2年間の越冬栽培体系を検討した。

(1) 越冬期間中はポリフィルムを畦上に被覆することで、無処理区に比較して平均地温を4～5℃高く確保でき、翌年の出芽・開葉期が半月程度早まった。

(2) これにより越冬率は97%以上を確保し、植付時の株間は越冬翌年の年生に準じてよいと思われた。

(3) ロング肥料(270日または360日タイプ)の利用により、2年分の施肥を植付時に施用した場合に、慣行の施肥体系と同等の生育・収量を確保できた。

また、1年目に生じた生子が2年目に出芽してくるが、日射が遮られて殆ど生育できないことも明らかにした。